

令和5年度 第1回長浜城歴史博物館協議会議事録

日時:令和5年8月28日(月)午後1時30分から

会場:長浜城歴史博物館 地階 研修室

出席者:大橋委員、東委員、小和田委員、川崎委員、草野委員、國賀委員、佐分利委員、
高崎委員、西川委員
横尾部長、小谷課長、森岡室長、事務局(福井、井並、岡本)

1.開会

2.あいさつ 福井、横尾部長

3.委員紹介

4.長浜城職員紹介

5.会議成立

長浜城歴史博物館管理規則第11条第5項により成立。

6.(1)会議の公開

・会議を公開することが承認された。

(2)2階展示室特別展見学

- ・柴田勝豊の資料として紹介されていた菅浦文書をみて、こんなものがあったのだと驚いた。
- ・まずは開館40周年を迎えられたとのことめでたい。今回の展示および図録は研究者にとっても、地元の者にとってもわかりやすくまとめられたものであると思う。今、高知県史の編纂に携わっており、来週にその集いがあるため、その時に図録を他の研究者にも見せたい。
- ・先日、福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館に行ってきたが、「姉川合戦屏風」が展示されていた。それは現代に創作されたもので綺麗でよかった。本日見た「賤ヶ岳合戦図屏風」も綺麗であった。屏風絵は綺麗に戦争を描いているなどと思った。一乗谷朝倉氏遺跡博物館に負けず劣らずの展示であった。
- ・地元の者からすると、長浜城は秀吉の城というイメージが強い。これまで放映されてきたNHK大河ドラマで扱われた山内一豊の事はわかるが、その他の城主については、どんな人物なのかわからなかった。今回の展示で地元の者にもそれぞれの城主についてよく伝わったと思う。
- ・若い方は古文書など長い文章を読むことを敬遠してしまうが、LINE風のパネルをつくるという工夫によって見やすくなっていた。いいやり方だと思う。展示する側の人間の意見としては、山内一豊の肖像画と千代の肖像画がそれぞれ違う方向を向く形になっていたため、左右逆にすると仲睦まじさが示せると思う。また、チラシは第2会場の曳山博物館を含めて1枚となっているため、少しわかりにくい。曳山博物館は別のタイトルなのに、第2会場と書くと、同じタイトルの別会場という認識になるので、改めた方が間違いがなくていいと思う。これは図録でも同じ印象を受けた。

- ・職業柄、小学生や中学生がどのくらい来ているのか気になった。低年齢の方が難しい字を見てもわからないので、LINE 風パネルはいい工夫だと思った。
- ⇒夏休みなので、家族連れで来ている子どもが多い。歴史を身近なものとして感じてもらえるきっかけになったのではと思う。
- ・城主の変遷というタイトルなので今の展示内容になっていると考えるが、地元の者からすると長浜城は「ねねの城」というイメージがあるし、地域の子どもたちにもそう伝えてきた。今回の展示には、ねねに関する展示がほぼないので、次の機会にはねねについても触れる展示があるといいと思う。
- ・友達に「長浜城の展示はよい展示」と伝えても、なかなか来てくれない。自分は城に近い場所に住んでいるので、もっと来てもらえるような企画・施策があればいいと思う。地元の人があまり来ていない印象がある。一貫齋に関する展示の際の望遠鏡が印象的で、その時も孫などにおすすめをしたが、なかなか来館までつながらなかったのは残念であった。
- ・歴代城主について詳しい展示であった。NHK 大河ドラマ「どうする家康」でちょうど先週取り上げられた小牧・長久手の戦いに関する展示などもあり、タイムリーだと思った。LINE 形式での古文書の紹介はいい取り組みで、子どもにとっても、古文書が読めない者にとってもいい工夫だと思った。ただ、秀吉に関する年表の活字が小さい。もう少し大きければ年配者にも見やすくなると思った。

(3) 令和4年度、令和5年度事業報告

- ・学芸員が1名減とあるが、事業の内容が非常に幅広く、数も多いので、今の人数で無理なくやっているのか。また、埋蔵文化財の分野の方がいなくなったことで、展示等に悪影響はないか。また展示の内容についても、考古の内容が行いにくくなったことはないか。
- ⇒埋蔵文化財の分野について、昨年度までは、歴史遺産課と一緒にやっていた。今年度は、所属がわかれたが、定例のミーティングを行うなど連携をはかっている。人員減について、本庁の職員にも協力してもらいながら進めている。学芸員の採用については今後の検討課題である。
- ⇒専門職の採用は厳しい状況にある。とはいえ、現在長浜市にある歴史や文化はしっかり守っていないといけないため、継続して採用していかなければならないという意識はある。人材があれば、皆さんからもご紹介いただきたい。
- ・同じことが気になっていた。学芸員が、様々な仕事をしているため、今後観光への連携という仕事が増えていくことを考えると、人材の確保をよろしく願いたい。タブレットについて、今のところは博物館の中で見られるということだと思うが、今後ネット上に公開することは考えているのか。また、シフェノトリン含有炭酸ガス製剤燻蒸について詳しくお聞きしたい。
- ⇒収蔵資料のアーカイブについては、今すぐというわけではないが、今後インターネット上での公開も行う必要があると考えている。現段階では、館内のタブレットのみでの閲覧。
- ⇒燻蒸について、シフェノトリン製剤を用いた燻蒸については、燻蒸後には、卵も死ぬものと業

- 者にも聞いている。酸化エチレンを用いた燻蒸は4日間かかるが、シフェノトリン製剤の場合は1日間で、ガスの噴霧から換気までを行う。
- ・タブレットは現在2階展示室には、設置していないが、メイン展示室は2階なので、どういものが展示されているかわからないのではないかと。
- ⇒タブレットは、展示しているものを紹介しているわけではない。展示中の資料ではなく、収蔵品のなかで人気のあるものを紹介している。
- ・可能であれば、2階展示室の資料説明を英語、中国語、ハンガルのものも用意してはどうか。
- ⇒2階展示室は定期的に展示替を行っているため、すぐにはできないが、3階はQRコードを設置して、来館者が自分のスマートフォン等で読み込むと多言語で説明を読めるようにしている。

(4) 博物館活動への意見、提言

- ・花火大会を展望台から見られる企画があるが、そういう城を使った企画がもっとあるといいと思う。船の上からも見られる企画があるが、このような企画を拡充してほしい。
- ⇒花火大会の特別観覧席として、1組限定10万円で長浜城展望台から見られる企画について、おかげさまで設定した4日間とも合わせて15人の方から購入いただき完売した。450年のフィナーレイベントも長浜城を舞台とする予定。光を用いて、長浜城を照らし出して、感動してもらえるようなイベントにしたいと考えている。
- ・展覧会の感想の中で拳がった、地元の人に来ないという問題について。1度来てしまうと、2回目は来なくてもいいと思う人が多いのではないかと。リピーターを増やす必要があるのではないかと。
- ⇒盆梅展も同じような感じで、市民がなかなか来ないので広報誌に無料券を入れている。それを見て、無料であれば行こうという方もいる。来館して、展示してあるものを見て、学んでもらえる機会でもあるので、無料券だけが正解とは思わないが、今後も何か施策を考えていくべきと考える。また、市民に何度も来てもらえないことについては、黒壁スクエアも同じ問題を抱えている。曳山まつりのような大規模なものには市民もよく来るので、なにか仕掛けができるといいと思う。
- ・入館者数について、コロナ前の数字に近づいているのでいいと思ったが、お客さんの構成比は変わったのか。
- ⇒インバウンドの入館者数は少し増えており、肌感覚ではあるが、欧米の方も来られるようになったと思う。
- ⇒そうであれば、英語対応は急いだほうがいいのではないかと。日本人の団体客は増えたのか。
- ⇒コロナ前と旅行の仕方が変わってきているように思う。学校利用はあるが、大人の団体はそこまで多くはない。
- ⇒個人客への対応が今後増えてくると思われる。アフターコロナの対策について分析してほしい。

7. その他

- ・次回の委員会開催を来年2～3月に予定。

以上